

平成22年度 【 学園研究費助成金 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ イシハラ ユカ
氏名 石原由華

研究期間 平成22年度

研究課題名 病院内水環境に生息する細菌と院内感染との関わりについての調査研究

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	石原由華	看護学部	准教授
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等

殆どの総合病院の病棟では、氷枕を作ったり薬杯や経管栄養バッグを洗ったりする水周り近くで、点滴のミキシングや点滴ルートの接続を行っている。水環境には、日和見感染を起こす *Pseudomonas* 属（緑膿菌など）や *Acinetobacter* 属菌が多く生息していることが知られている。また経管栄養バッグは洗浄しても栄養分が残っていることが多く、微生物の繁殖の温床になっている。そして、末梢静脈ならびに中心静脈カテーテル関連血流感染の感染経路の一つとして、点滴ルートや輸液製剤の汚染が指摘されている。そこで、水周りや点滴製剤の準備をする作業台との位置関係ならびに作業状況、さらに水周り・作業台における微生物の汚染状況を調査し、環境改善のための基礎資料とする。

2. 研究方法等

研究方法

・愛知県下総合病院において、病棟のナースステーションにおける水周りや点滴製剤を準備する作業台（輸液調製台）との位置関係を調査する。

1. 対象

・愛知県下で、病床数約300以上の総合病院で、病院機能評価による認定を受けている病院を対象とし、一つの病院につき1～2つの病棟を調査した。

2. 調査方法

- ・輸液調製台の配置場所を確認する。
- ・輸液調製台と水周りの距離をメジャーで測定する。
- ・輸液調製台の大きさをメジャーで測定する。
- ・輸液調製台のゾーニングの有無を確認する。
- ・輸液調製台と水周りをデジタルカメラで撮影して、輸液調製台や水周りに置いてある物品を確認する。
- ・水周りの大きさをメジャーで測定する。

3. 研究成果の概要

・愛知県下の8総合病院の計13病棟で実地調査を行った。

1. 輸液調整台の配置位置について (下の表参照)

2. 輸液調整台と水周りとの距離

輸液調整台と水周りの距離 (cm)	60~80	病棟数	2
	80~100	病棟数	4
	100以上	病棟数	3
	定まっていない	病棟数	1

3. 輸液調整台の上にある物品 注射用のトレイ、マニュアルや掲示物、内服薬、輸液調製には使っていないディスプレイ製品、看護師のクリップボード、輪ゴム、医療用テープ

4. 輸液調整台の周囲にある物品 感染性廃棄物や針用廃棄などのゴミ箱、各種ディスプレイ製品、調製前の注射剤

病棟	水周りとの位置 (cm)		ナースステーションとの位置	ゾーニング
1	別室	—	隣接	無
2	同室	89	隣接	有
3	同室	73	隣接	無
4	同室	可動性	可動性	無
5	別室	—	別室	無
6	別室	—	別室	無
7	同室	81	隣接	無
8	同室	65	隣接	無
9	同室	98	隣接	無
10	同室	90	同室	無
11	同室	209	隣接	無
12	同室	133	隣接	無
13	同室	128	隣接	無

4. キーワード

①輸液調整台	②水周り	③ゾーニング	④病棟環境調査
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

・佐藤晶子・太田美智男・石原由華、輸液製剤を準備する調製台と水周りの病棟環境調査、第26回日本環境感染学会総会、2011年2月18日